



萩元不二夫さん(左)と毅さん(中央)



みずみずしいほうれん草  
おいしいほうれん草は、緑が濃く、葉肉が厚い



手作業で選別していきます 出荷前の洗浄作業の様子



もうすぐ収穫を迎えるほうれん草

市長の事業者訪問

FACE to FACE 17

萩元 <sup>たけし</sup> 毅さん(水稲・ほうれん草栽培農家)  
所在地/水子4425-1

水子で農業を営む萩元毅さんは、親子3代でお米やほうれん草を栽培しています。若い世代の農業者が減少する中、就農することを決めたくっかけや想いなどを伺いました。

就農のきっかけは農業経営に関する相談

「うちで作るほうれん草は、鶏ふんを利用した有機栽培と低農薬にこだわっています」と語る萩元さんは、高齢化が進む農業者の中で期待されている若い農業者の一人。30歳を過ぎてから実家の農業を継ぎ、現在2年程になるという。就農したきっかけは、就農前に勤めていたJAいるま野で、農家の方々から農業経営に関する相談を受けていたことだといいます。「我が家でも祖父が高齢になり、今後どうしていくかが大きな問題になっていました。後継者に悩む農家の方々からの相談に乗るうちに、自分の家のことを考えることが多くなり、農業を継ぐことを決断しました」と振り返ります。

安全・安心な農作物を届けられるのが魅力

「家族、そして多くの方に安全なものを食べさせてあげたいと思っています。その想いの実現に自ら関わることができ、安全・安心な農作物を消費者に届けられるのが魅力的です。現在は市場への出荷のみですが、将来は、新鮮な農作物を直接消費者に届けられる直売に挑戦したいと考えています」と農業の魅力と今後の抱負を語る萩元さんの目は輝いています。その姿を見た父親の不二夫さんは「栽培のほかにも、経営のノウハウなど覚えなければならないことがたくさんあります。私の知識をさらに深化させて、自分を超越する経営者になってほしいと思います」と目を細めていました。私は、後継者問題を抱えている農業者の皆さんを支援するためにも、農業の魅力を広く発信するとともに農業経営を継続するための支援も進めていきたいと考えています。

※直売は行っていません。農家に直接連絡することはご遠慮ください。

広報「富士見」は、市内の公共施設や駅などにも置いてあります。声の広報「富士見」(音声DASiyデザイン)版は市内図書館で貸し出しています(市ホームページで聴くこともできます)。



|                   |   |  |  |
|-------------------|---|--|--|
| <p>■市公式ホームページ</p> | <p>■ SNS</p> <p>LINE<br/>Facebook<br/>Twitter<br/>Instagram<br/>YouTube</p> | <p>【カタログポケット】広報「富士見」を多言語で</p> <p>【マチイロ】広報「富士見」をスマートフォンで</p> <p>【テレ玉データ放送】テレ玉(地デジ3ch)視聴中にdボタンで市の情報を視聴</p> | <p>人口と世帯数(1月1日現在)</p> <p>人 □…112,839人(前月比 -105人)<br/>(男 55,349人 女 57,490人)</p> <p>世帯数…54,432世帯(前月比 +5世帯)</p> |
|-------------------|---|--|--|

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

3 すべての人に健康と福祉を  
12 つくる責任 つかう責任  
15 陸の豊かさも守ろう

富士見市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。